

主な新聞記事

(平成 2 0 年春)

春の叙勲に 3973 人

女性、過去最多の 367 人に

政府は29日付で、08年春の叙勲受章者3973人(女性367人)を発表した。全体の受章者に占める女性の割合は9.2%で、受章者数とともに過去最高。姫路少年刑務所篤志面

で最高齢の受章者となった。(12面、関係地域面に受章者一覽)
 桐花大綬章は元参院議長の前田寛之氏(70)、旭日大綬章は元日本郵政公社総裁の生田正治氏(73)ら4人、瑞宝大綬章は元宮内庁長官の源浅利夫氏(72)と元東大校長の吉川弘之氏(74)が受章した。
 芸術文化分野では、「一日 夢の柵」などの作品で知られる小説家の黒井千次氏(75)が旭日中綬章、女優の池田淳子(73)ら4人、映画界では「坂口裕彦」が桐花大綬章を受

接委員の黒田久子さん(104)が瑞宝小綬章を受章し、春秋の叙勲にたった1964年以降

監督の佐藤純弥氏(75)がそれぞれ旭日小綬章を受けた。
 外国人叙勲の受章者は26カ国・地域の51人。元駐日米大使のハワード・ベーカー氏(82)が桐花大綬章を受章した。「坂口裕彦」

春の叙勲

池内淳子さんら 3973 人

104歳の最高齢受章者も

政府は二十九日付で、二〇〇八年春の叙勲受章者を発表した。今回最高位の桐花大綬章に倉田寛之元参院議長(70)が選ばれ、旭日章九百三十人、瑞宝章三千四十二人を合わせ三千九百七十二人が受章。女性には旭日小綬章を受けた俳優の池内淳子(本名中沢純子)さん(73)ら三百六十七人が全体の約9%となり、人数、割合ともに

〇三年の制度改正後で最高だった。民間人は約42%の千六百六十七人。

学術分野では、寄生り生活指導に尽力した虫学の鈴木直義前帯広畜産大学長(76)らが瑞宝重光章、生物系薬学の宇井理生東大名誉教授(76)らが瑞宝中綬章を受章。また瑞宝小綬章を受けた姫路少年刑務所篤志面接委員の黒田久子さん(104歳)は、兵庫

芸術文化の分野では、小説家の黒井千次(75)、建築家の岡田新一さん(73)らが旭日中綬章を受章。俳人の宇多喜代子さん(73)、映画監督の佐藤純弥さん(75)、講談師の宝井馬琴(本名山梨務)さん(73)らが旭日小綬章に選ばれた。

「人目につきにくい」さん(百四歳)は、兵庫県姫路市は、一九六四年に春秋の叙勲が始まって以来、最高齢の受章者となる。別枠の外国人叙勲は二十六カ国・地域の五十一人が受章。日米友好に寄与したとしてベーカー前駐日米大使(82)が桐花大綬章を受けた。

大綬章は天皇陛下、重光章は福田康夫首相が五月八日、皇居で授与する。

東京新聞 (朝刊 3 面)

桐花大綬章に次ぐ旭日大綬章は生田正治元日本郵政公社総裁(73)、石井道子(75)、真鍋賢二(73)西元環境庁長官、小野清子元国

家公安委員長(73)の四人。

面と地区版に

桐花大綬章に次ぐ旭日大綬章は生田正治元日本郵政公社総裁(73)、石井道子(75)、真鍋賢二(73)西元環境庁長官、小野清子元国

産経新聞(朝刊 28面)

春の叙勲 3973人

政府は29日付で平成20年春の叙勲受章者を発表した。今回最高位の桐花大綬章に倉田寛之元参院議長(70)が選ばれ、旭日章930人、瑞宝章3042人を合わせて3973人が受章。女性は旭日小綬章を受けた俳優の池内淳子(本名・中沢純子)さん(74)5367人で全体の約9%となり、人数、割合ともに15年の制度改正後で最高だった。民間人は約42%の1667人。

桐花大綬章に次ぐ旭日大綬章は生田正治元日本郵政公社総裁(73)、石井道子(75)、真鍋賢二(72)西元環境庁長官、小野清子元国家公安委員長(72)の4人。芸術文化の分野では、小説家の黒井千次(本名・長部舜二郎)さん(75)、建築家の岡田新二さん(80)らが旭日中綬章を受章。俳人の宇多喜代子さん(72)、映画監督の佐藤純弥さん(75)、講談師の宝井馬琴(本名・山梨務)さん(72)

らが旭日小綬章に選ばれた。学術分野では、寄生虫学の鈴木直義元帯広畜産大学長(76)らが瑞宝重光章、生物系薬学の宇井理生東大名誉教授(75)らが瑞宝中綬章を受章。「人目につきにくい分野」では、消防団員を約37年間務めた松本昭郎さん(81)が松江市IIらが瑞宝双光章、身体障害者施設などで約29年にわたり生活指導に尽力した築矢ひろみさん(61)が分市IIらが瑞宝単光章に選ばれた。また

瑞宝小綬章を受けた姫路少年刑務所篤志面接委員の黒田久子さん(104)が兵庫県姫路市IIは、昭和39年に春秋の叙勲が始まって以来、最高齢の受章者となる。別枠の外国人叙勲は26カ国・地域の51人が受章。日米友好に寄与したとしてペーカ元駐日米大使(82)が桐花大綬章を受けた。大綬章は天皇陛下、重光章は福田康夫首相が5月8日、皇居で授与する。

純文学に豊かな収穫

夢は三婆の舞台再び

古井由吉さんらとともに「内向の世代」を代表する作家。日常の底に真実を探る「群棲」(谷崎潤一郎賞)、経た時間の意味を自問する「羽根と



「驚きました。この年齢までやってきたことを認めていただいたのでしようか」。顔をほころばせ、控えめに喜びを語る。

小説家、黒井千次さん(75)

「昨年の短編集「一日夢の柵」(野間文芸賞)は黒井文学の大きな達成の一つ。「書くこと以外やることがない」と次作を見せる。【米本浩二

翼(毎日芸術賞)などの秀作で、純文学に豊かな収穫をもたらしてきた。東大経済学部を卒業後、自動車メーカーに15年勤務。日本文芸家協会理事長も経験。情理兼ね備えた人柄は後進の作家らの信頼が厚い。現在、芥川賞選考委員などを務める。

生活で初めての経験に、「当分、仕事ができないのでは」と悩んだ。「あのころを振り返ると、信じられない。周囲やファンに支えられたおかげで



受章の知らせに、1年前の闘病生活を思い出したという。胸の病で全国公演を控えていた舞台を降板。50年を超える芸能

女優、池内淳子さん(74)

「目指すのは代表作『三婆』の舞台に再び立つことだ。もうすぐ上演400回に達するだけに、心に期すものがある。「いい脚本、演出、すぐれたスタッフに恵まれた大好きな作品。次に演じるときは、生まれ変わったつもりで」【岩崎信道】

「喜びを語る声に実感がこもる。復帰後は、体調と相談しながらテレビドラマなどに出演。食生活に気を配り、ウォーキングで体力づくりに励む。自指すのは代表作『三婆』の舞台に再び立つことだ。もうすぐ上演400回に達するだけに、心に期すものがある。「いい脚本、演出、すぐれたスタッフに恵まれた大好きな作品。次に演じるときは、生まれ変わったつもりで」【岩崎信道】

大女優は仏壇の両親に手を合わせた。三千人以上の受刑者に希望を持たせようとした百歳を越す面接委員は、「もっと勉強せなあきませんわ」。各分野に偉大な足跡を残すその道の「達人」たちが、叙勲の喜びを語った。(③面参照)

東京新聞 (朝刊 28面)

春の叙勲

旭日小綾章が決まっても、謙虚な語り口と上品な物腰に変わりは無い。俳優の池内淳子さん(74)は「信じられない。本当に運がいい。作品と人さまに恵まれたおかげです」と繰り返した。受章の知らせを受け、仏壇に手を合わせた。「おかげさまで」。亡くなった両親に感謝の心を伝えたという。

俳優 池内淳子さん



人さまのおかげ

百貨店勤務を経て芸能界入り。新東宝の看板女優として脚光を浴びた。テレビドラマ「日目の背信」で「よろめき」ドラマ、「女と味噌汁」シリーズも大ヒットした。「今でも舞台初日から一週間は興奮状態で、何を言われても耳に入らない。でも、けいこはいくらやっても飽きません。思いがけないことが必ずありますから」昨年肺炎を患い、50年を超える芸能で初めて舞台を降板。健康の大切さが身に染み込んだ。「自分を大切にし、元気いっぱい仕事が続けたい」

受刑者支援 黒田久子さん



「この仕事は心の張り。命ある限り続けさせていたがきます」。瑞宝小綾章を受けた百四歳の黒田久子さん(兵庫県姫路市)は張りのある声で話した。姫路少年刑務所で受刑者と面接して社会復帰を支援するボランティア「篤志面接委員」を五十一年間にわたって務めている。全国に約千八百人いる面接

命ある限り継続

委員の中で最高齢。これまでに会った受刑者は三千二百人を超え、顔を見れば、どんな罪を犯したか、おおよその察しがつく。現在も月に二度、刑務所に通い、社会復帰を目前に控えた受刑者に「希望を持たせること」を心掛ける。受刑者の抱える問題は多岐にわたる。「世の中が変われば犯罪も変わる。わたしももっと勉強せなあきませんわ」とあくまでも前向き。歩く際に職員が手を貸さずとすると「やんわりと断った。つえは使つが、足腰はしっかり。「健康のためには仕事を持たなあかん」が持論だ。

読売新聞 (朝刊 22 面)

春の叙勲

都内388人に栄誉

春の叙勲の受章者が発表され、都内在住者からは388人が選ばれた。このうち旭日小綬章を受けた講談師の宝井馬琴さん(72)と旭日双光章の歌舞伎床山の鴨治歳一さん(70)に喜びの声を聞いた。



*旭日小綬章
講談師 宝井馬琴さん 72
(練馬区)

*旭日双光章
歌舞伎床山 鴨治歳一さん 70
(港区)

静岡市清水区出身。高校3年減る一方。師匠には「講談をのとき、ラジオから流れてきた五代目宝井馬琴の講談の面白さに驚いた。「落語が機関銃に撃たれたような衝撃なら、講談のそれは大砲だった」と振り返る。明治大文学部に進学し上京。 誉を喜ぶ。

話芸の「衝撃」 広く世間に

都内にあった五代目の家に通うようになり、1959年に正式入門した。時代はずでにラジオからテレビへと移っていた。「吉土芸」と呼ばれるほど、話芸に特化した講談が活躍できる舞台は

「私のような裏方の人間が(叙勲を)頂いてしまい、いいのでしょうか」と照れ笑いを浮かべた。役に合わせてカツラを結い上げるのが歌舞伎床山の仕事。粹

舞台支えるカツラ一筋

な兄貴か、ヤボな侍か。歌舞伎では役の身分や職業、性格によりカツラの形が決まる。役者を生かすも殺すも床山の腕次第で、クシとはさみを自在に操りながら仕上げていく。初めて歌舞伎座で舞台を見た

ら学び、現在は中村雀右衛門さんを担当する。

「気持ちよく舞台上がれたと役者に言われることが、一番のやりがい」と静かに語る。古希を迎えても、仕事に傾ける情熱は衰えを知らない。

【叙勲】

神戸新聞 平成20年4月29日(火)



子らの幸せ願い40年

瑞宝単光章

（児童養護施設保育士）
寺谷 和美さん（60）

上郡町上郡

一九六八年、上郡町の児童養護施設「泉心学園」に保育士として就職し、四十年になる。

「長く勤められたのは職場の皆さん、家族をはじめ、周りの人のおかげ。感謝しています」。受章を控えめに喜ぶ。

子どもたちの幸せを願って四十年。この間に接した子どもは七百五十人にもな

る。

「昔は子どもと一緒に元気がいればよいという面もあったが、いまは親の虐待など問題は複雑さを増すばかり」

「対応マニュアルなどはなく、常に子どものことを考え、関係者みんなで問題を解決していくしかない。日々、勉強の連続です」ともいう。

成長した子どもが結婚の報告や家族連れで訪ねてきてくれた時が一番の喜び。そんな思いを胸に、しばらく「現役」を続ける。

（横部章夫）

産経新聞 平成20年4月29日(火)

1300人以上の「母親代わり」



さまざまな事情で保護者がいかなかったり、家族と一緒に暮らせない子供たちの「家庭代わり」となる児童養護施設で、保育士として

働き続けて40年。これまでに1300人以上を施設から社会へ送り出した。「母親代わり」だけに、子供たちから「うさぎ」

瑞宝単光章
「泉心学園」保育士
寺谷和美さん（60）
上郡町上郡

「放っといて」と言われることも。それでも、「巣立った子供たちが結婚したり、子供を産んだりして報告に来てくれるときが幸せ」と顔をほころばせる。

かつては親の離婚に伴って入所するケースが多かったが、最近は親の虐待による入所が増加している。「発達状況や環境も一人ずつ異なるため、長年やっていてもマニュアルなんてない」と、今日も新しい発見を求めて子供たちとぶつかり合う。

春の褒章に738人

政府は28日付で春の褒章受章者738人(うち女性186人)と17団体を発表し、学術・芸術・スポーツで著しい業績を上げた人を対象とする紫綬褒章は、俳優の寺尾聰さん(60)、桃井かおりさん(57)、将棋の十六世名人、中原誠さん(60)らが受章した。

内訳は、紫綬褒章 30人、黄綬褒章 22人、緑綬褒章 21人、藍綬褒章 462人、15団体、9人、2人。発令は29日付。【目下部聡】

朝日新聞 (朝刊 30 面)

春の褒章、738人17団体

寺尾聰さん、親子2代で

政府は28日付で、春の褒章の受章者738人(うち女性186人)と17団体を発表した。29日に発令される。芸術文化、スポーツ、学術研究の各分野で活躍した人を対象にした紫綬褒章は30人に贈られる。俳優で歌手の寺尾聰さん(60)は、父で俳優の故宇野重吉さん(81年春)に続き、親子2代での紫綬褒章受章となった。指揮者の大野和士さん(48)、将棋棋士の中原誠さん(60)、歌舞伎俳優の中村魁春さん(60)、俳優の桃井かおりさん(57)らも選ばれた。国内のアルツハイマー病研究で指導者

的な役割を果たす東大名教養の井原康夫さん(63)にも贈られる。

公共の利益に貢献した人に贈られる藍綬褒章は、QRコードの開発で指揮をとった元デンソー副社長の松本和男さん(65)ら462人が選ばれた。長年にわたって一つの仕事に打ち込んだ人を対象とした黄綬褒章は219人が選ばれた。ボランティア活動などを対象にした緑綬褒章は、刑務所慰問に熱心な俳優の杉良太郎さん(63)ら22人と15団体、人命救助を対象にした紅綬褒章は、5人と2団体に贈られる。

読売新聞 (朝刊 34 面)

春の褒章738人 杉良太郎さんに緑綬

政府は28日付で、2008年春の褒章受章者738人と17団体を発表した。このうち女性の受章者は186人で、女性の占める比率は過去最高となった。発令はいずれも29日。

学術、芸術やスポーツなどで活躍した人に贈られる紫綬褒章に、俳優の桃井かおりさん(57)、演出家の申田和美さん(65)ら30人が選ばれたほか、社会奉仕活動に尽くした人を対象とする緑綬褒章を、13年以上にわたって刑務所の慰問などをボランティアで続けてきた俳優の杉良太郎さん(63)(本名・山田勝啓)ら22人、15団体が受章した。

長年、一つの仕事に打ち込んだ功績が認められた黄綬褒章は219人が選出。教育や福祉など公益に尽くした人を対象とした藍綬褒章は462人に贈られる。

読売新聞 (朝刊 30面)

春の褒章 都内67人に栄誉

春の褒章の受章者が発表され、都内からは緑綬、黄綬、紫綬、藍綬あわせて67人が選ばれた。4人に喜びの声を聞いた。



＊黄綬褒章
貴金属細工加工業
内田博紹さん 69
(東村山市)

宝飾の「名工」 熟練半世紀

貴金属加工一筋50年。「身につけてくれる人の笑顔が生きがい」と、指輪やペンダントなどのアクセサリー製作に打ち込んだ。

高校卒業後、郷里の松江市を離れ、埼玉の職人に弟子入りした。12年間住み込みで働いた後、結婚を機に30歳で独立。しかし、注文はなかなか入らず、下請けの仕事と、宝石店を回る営業をこなしながら、寸暇を惜しんで腕を磨いた。

その成果は、1979年に挑んだインターナショナルプラチナコンテストであらわれ

かつて、日光山輪王寺の門跡から「忘己利他」と書かれた色紙を贈られた。自分を忘れて他人の幸福を願うという仏教の教え。「この言葉に色々教えられました」としみじみと語る。

組合員である八百屋は、多くが個人商店。みな自分の店の経営に忙しく、役員のなら

組合では、先代理事長の時に「八百屋塾」を創設。自身が理事長になってからも充実に努めた。料理人や栄養士なども講師に招き、大型店との競争にさらされる八百屋の生き残りをかけた店作りを伝授してきた。

手が少ないのが実情だ。40代で役員に推されて以来、40年近く組合員のために奔走してきたのも、この言葉があったからだ。今年1月に亡くなった妻の信子さんも、小言を言いながらも店を切り盛りしてくだね」

「他の八百屋のため」奔走



＊黄綬褒章
元都青果物商業
協同組合理事長
阿部喜八郎さん 79
(墨田区)

読売新聞 (朝刊 30面)



*黄綬褒章

駐輪場システム製造
販売会社社長

土本義紘さん 66

(武蔵野市)

機械屋の情熱 駐輪場に

大手ガラス会社を定年退職後、高校の同級生が経営する今の会社に誘われた。与えられたテーマは駐輪場管理システムの開発。長年、「機械屋」として生産設備や商品開発を手がけた血が騒ぐ。

さっそく駅前の駐輪場など、既設のゲートをあちこち見て回った。朝のラッシュ時、ゲートが開くと2人も3人も一緒に入ってしまう。センサーの不調で人がいるのにゲートが閉じることも。問題点が次々に浮かび上がった。開発した「サイクルン」は、

回転扉のように自転車利用者が回転ゲートを押し通すの単純な構造。2枚のゲートが90度の角度を保って一緒に回る。2台同時には通過できないが、スムーズに次々入ることができる。自転車とバイクの識別センサーの考案にも

3月までの導入実績は約150か所、売り上げはさらに伸びている。「大変な名譽。若い人ほどスピードはないが、経験を生かした」と目を細める。

褒章を歓迎しつつ、「君はもう老人だよと言われた気もする。僕は前向きだから、今書いている小説をもっと一生懸命、力を注いで書けつて」とたとえ止めます。

放浪の作家である。「文学を書くには、人間にならない」と考え、22歳から足かけ12年、欧州、インド、中南米などを旅した。「小説の創作は、精神の地図を広げていく行為。いろんな体験から、樹液のようにたれてくるものがある。それが無意識を耕す」と語る。1979年に芥川賞

放浪体験 小説に生きる



*紫綬褒章

作家

青野聰さん 64

(八王子市)